

中学生の「税についての作文」



租税教育推進活動の一環として納税貯蓄組合総連合会並びに関係協力団体が中学生の「税についての作文」を募集し、川崎区・幸区の中学校から多数の作品が寄せられ、川崎南税務署長賞をはじめ各団体賞があり厳正な審査の結果、当川崎南法人会会長賞に川崎市立富士見中学校3年生、高木美咲さん、川崎市立川崎中学校3年生、雨森健留さん、川崎市立御幸中学校3年生、高知陽平さんの3作品の作文が選ばれましたのでご紹介します。

税の大切さ

川崎市立富士見中学校3年

高木 美咲

税というのは、なんの為にやるのだろう。税という言葉を聞くと自分達が払うお金だとみんな考えるのではないだろうか。

確かになにか物を買うときには消費税、給料を買うときには所得税など払っている。しかし、税があるからこそ、医療費が安くなったり、町のきれいさが保たれていたり、安心安全な毎日をおくる為にいつでもかけつけてくれる警察官がいるのだ。私達が、勉強する為の教科書もみんなの税金によっていただいたものだ。

私達の暮らしの中で、税というのとはなくてはならないもので、一人一人が税を払っているからこそ、私達の暮らしもよくなるのだと私は思う。「助けて生きていこうね」というのが今の社会のつくりなのでは

ないだろうか。でも全ての人が税をしっかりと払っているとはいえない。例えば、コンビニの場合、商品と税がセットになっていて全ての人が払っているのは確かだ。しかし、これは勝手に払われている税で、払い込みにいかなければならぬ税もある。例えば、自動車税などは一年に一回払いに行く。こういうシステムを良いことに払わない人が多々いるのだ。払う側として高いうえ、払わなくてもばれないだろうと思っているのかもしれないが、自分達が払った税金が色んな人の役にたっているのだと考えたり、まず自分が税のおかげで豊かに暮らせているのだと理解すれば、ずるいことなどしないで見んながもっと気持ちよく暮らせるのではないかとと思う。

私達の一番身近な税金はやはり消費税ではないだろうか。簡単に説明すると消費税というのは、消費に対して課せられる租税のことで最近よく、ニュース

などで消費税増税という言葉を目にする。まず考えられるメリットとして、消費税は勝手に払われている税なので脱税対策になるのだ。他にも社会福祉が充実したり、税収が上がることが国が豊かになるということがあげられる。次にデメリットはデフレが進んでしまったり、経路格差が広がり生活が苦しくなる人も多くなり、消費税を10%まで上げると今の日本は耐えられないということがあげられた。

現在の日本の借金は九百七十兆を超えていて、毎年数十兆円ずつ増えている。それを返す為に増税が必要だと言われているのだ。私は国がしっかりと良い使い方をしてくれるのであれば、消費税増税に賛成だが税金について調べていなかったら絶対反対だったと思う。

最後に、もう中学3年生で社会にできるのもまだまだ先ではないので将来日本の為に貢献できる仕事につきたいなとこれを調べてあらためて思った。

中学生の「税についての作文」

幸せを創るお金『税金』

川崎市立川崎中学校3年

雨森 健留

「九十二兆四千百六十億円」、これは、二十一年度の国の歳入と歳出の予算です。

僕は、このことを知って、こんなにも多くのお金を、どのようにして集め、何に使われているのかが気になり、この事について調べてみました。

まず、お金の集め方、「歳入」についてです。歳入の半分近くは、「公債」つまり、国民から借金をして集められています。そして、44.3%は租税です。僕の生活にも深く関係している消費税の割合は、租税の中でも所得税に次いで二番目の多さとなっています。全体の割合で見ると11%を占めています。次に、集められたお金が何に使われているのか(歳出)については、割合が一番多かったのは、病気・けが・失業・高齢になったとき、「最低限度の生活」を営む事ができるように国

が生活を補助するために使われるお金、「社会保障」でした。

そして、二番目は、国民から借りたお金を返済するための国債費でした。僕の生活によく関係している、小中学校のためのお金は、「文教・科学振興費」と言い、全体の6%でした。

僕は、これらの事を調べ、大きく分けて、二つの事を感じました。

まず、日本は、国民からの借金、「公債」に頼りすぎているという事です。借りたお金は、返さなければならぬ。これからの社会は、高齢化が進み、さらにお金が必要となってきます。だからと言って、さらに借金をしていたら、効率が悪く、国という歯車は回りきらなくなってしまうと思います。だから、来年からの増税は、国という歯車を回し続けるためには、とても重要な事だと思いました。

次に、「文教・科学振興費」についてです。僕は始め、自分達のために使われているお金が、全体の6%と知り、少し少ない気がしました。しかし、小学校入学から、高校卒業までの

7つの間違い探し



【作者紹介】

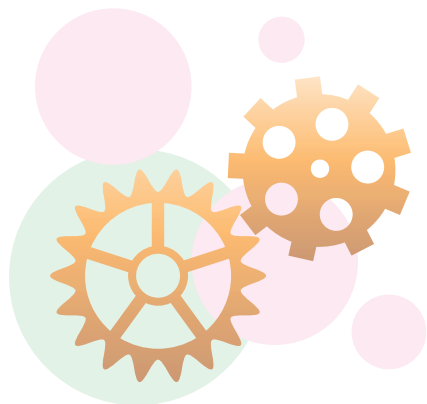
神谷一郎 (かみや・いちろう)
イラストレーター、デジタルイメージ会員、日本出版美術家連盟会員など。専修大法学部卒後、漫画プロダクションを経て漫画家に。現在はフリーランスのイラスト

十二年間で、一人当たり千六百・三万円の税金が使われている事を知り、驚き、そして、自分達のために、こんなにもお金を使い、将来のための学びの場を用意してくれて、有難く感じました。

そして、税金とは、国という歯車を回し、国民に安心と幸せを創り、送り続けるための原料なのだと思いました。

僕が大人になり、働くようになれば、今より多くの税金を国に払うようになります。だから、僕が大人になり税金を払うようになったら、「自分のお金

がなくなってしまう。」と思うのではなく、「自分の未来や、日本にいる誰かの幸せのために自分は税金を納めているのだ。」と思えるようになります。



中学生の「税についての作文」

税金の有難みについて

川崎市立御幸中学校3年

高知 陽平

「税金」、そう聞くと何だか固そうで嫌なイメージしか無かった私ですが、今回を期に税について調べ、税金に対する考え方が変わり、自分の意見が持てるようになりました。

今まで私は、税金はただ橋をとりついたり、道路を造るだけのばつとしないものだと思い、よく分からないものだと思っていました。しかし、税金のことについて調べていくと、部活動の大会などが行われる施設づくりに使われていたり、学校に安全に通うための信号づくりに使われたり、学校など教育施設の建設や、机・椅子・教科書などに使われているということを知り、なんだか急に税金が身近に感じられるようにもなりました。それに、自分の払った税金が知らない人達、困っている人

達の助けになるということを考えると、とても嬉しくなりました。私達は、税金という名の下の協力し合い、助け合っているんだなと思いました。そのことを考えると、今私達が平和に、幸せに、安全に暮らすことが出来ているのは、税金と、その税金を払ってくれている人達のおかげなんだなと思いました。

それに平成二十二年四月より、国の費用で、つまり税金で公立高等学校の授業料が、無償にされました。来年には私も高校生です。入学したら、国への、納税者への感謝を忘れないようにしたいです。

さらに調べていく中で、私達の税金が、東日本大震災の国の復興財源になっているということも知りました。私は、ずっとずっと被災地復興のなにかしらの手助けをしたいと思っていました。しかし、実際に何をやって良いのかが分からず、時間も過ぎ、何も出来ていないと悩んでいました。しかし、私の払っ

た税金が東日本大震災による被災地の人達への少しもの手助けになっていることを知った時、私は本当に嬉しくなりました。復興のために必要な財源は約二十五兆円だそうです。私の払う税金なんて、本当に小さなものなのかもしれません。しかし、それがどんなに小さい手助けであつたとしても、0.01%でも困っている人達の助けになるならば、私は本当に嬉しいです。税金を払うということは、とても素晴らしいことなんだと感じることが出来ました。

しかし、ニュースで脱税をしていた人が捕まったなどということを知ると、私はとても悲しい気持ちになります。税金を払えば、困っている人などの手助けが出来るといふのに、納税という義務から逃げるなんて、絶対に許せません。もっと多くの人達に、納税の大切さを分かってもらいたいです。今回私はこの税の作文を書くことをきっかけに、納税の大切さ、税の重要性について考えることが出来ました。本当に良かったです。

*上の絵と下の絵には相違点が7か所あります。見つけられますか？(答えは7頁にあります)



レーターとして、雑誌・広告・WEB等で活躍中。第35回集英社YJ新人賞、第51回講談社漫画賞などを受賞。第4回デジタルアートコンテスト佳作。著作に「マニアックサイバー」(グラフィック社刊)。